

がくらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 119 号

平成16年12月24日

編集 旭川医科大学
教務・厚生委員会
発行 旭川医科大学教務部学生課



クリスマスコンサート2003

(写真撮影：学生課)

就任ご挨拶	松田 光悦.....	2	授業評価の公表	6
助教授紹介	河野 透.....	3	快適に利用できる図書館であるために	25
助教授紹介	石子 智士.....	3	駐車場有料化について	26
助教授紹介	川村祐一郎.....	3	解体体慰霊式	27
助教授紹介	田崎 嘉一.....	3	学位記授与式	27
本学のホームページがリニューアルされました	3		医学科第2年次編入学生入学式学位記授与式.....	27
外国人留学生秋季オリエンテーション	4		表紙写真の募集	28
クリニカルクラークシップを経験して	寺田 祥子.....	4	秋の叙勲	28
解剖実習を終えて	佐賀 智之.....	5	教員の異動	28
解剖実習を迎えて	上坂 貴洋.....	5	窓外	28



「就任のご挨拶」

歯科口腔外科学講座 教授 松田 光悦

この度、平成16年10月1日付けで、歯科口腔外科学講座の教授を拝命いたしました。

前任の初代教授、北進一先生のご指導のもとで築かれてきた当講座の伝統を引き継ぎ、微力ながら医学部における歯科医学教育そして歯科口腔外科診療を通じて本学の更なる発展に貢献するよう努力する所存であります。どうぞよろしくお願い致します。

私は、臨床におきましては歯科口腔外科全般にわたっての診療と同時に、当科の重要な臨床テーマである口唇裂・口蓋裂の治療を専門としております。研究面では従来からの代用顎骨の開発のための基礎的研究に加え、骨延長法による顎骨再建、自己の骨髓幹細胞を用いる骨再生に取り組んでいます。教育に関しましても、学部学生への講義や臨床実習、チュートリアル教育やオスキーに参加させて頂き、医師に必要な歯科および口腔疾患の知識や診察技術を提供し、本学の教育理念である高度で幅広い実践的臨床能力を有する医師の育成ということを念頭に活動しております。

医学部の歯科口腔外科の役割を考えますと、地域における口腔外科疾患患者の治療、医学部学生や医科研修医の教育、そして研修歯科医師や口腔外科専門医を目指す者の教育とトレーニング、さらに他の科の入院患者や職員の歯科治療などが挙げられます。また、歯科口腔外科の診療目標は、口腔の健康の保持・増進と、咀嚼、会話といった口腔機能の改善ということであり、口腔外科はどちらかという歯を抜いたり、顎骨を切除したりと破壊的な部分が多く、その後の機能回復には、一般歯科治療の技術が必要です。従いまして医学部付属病院におきましては、いわゆる口腔外科診療だけでなく一般歯科診療もその守備範囲であるという認識のもとに科を運

営していきたいと考えております。また地域医療への貢献という観点から、地域への高度な専門的歯科医療の提供ということ、さらに法人化ということもあり経営に対する貢献ということも考慮しなければいけません。これまで行ってきたことを地道に継続することに加え、口腔インプラント（人工歯根）による治療をルーティン化し、歯周組織の再生医療などと結びつけ、大学でなければ出来ない独自の治療体系を構築し、地域医療ならびに病院運営に貢献していきたいと考えております。

教育に関しましては、その主体は将来医師になる、医学部学生であります。将来医師になる学生に教えるべきことは歯科学や口腔外科学の知識、技術ということも重要ではありますが、それ以上に将来彼らが診るであろう医科の患者様に役に立つものでなければならぬと考えております。それはすなわち、全身の健康と口腔の健康、全身疾患と口腔疾患の関わりといったことであり、歯科口腔外科学というより、口腔科学（Stomatology）の知識を身につけてもらうことが重要と考えます。その結果、彼らの診る患者様の健康増進、各種疾患の予防、QOLの向上ということに役立ち、本学の教育理念にそった教育であると確信しております。

研究に関しましては、これまで蓄積してきた人工骨開発の研究をさらに発展させるよう努力したいと考えます。さらに新しいテーマとしまして、再生医療、特に骨の再生医療に、本格的に取り組み、顎骨欠損をはじめとする口腔機能障害の改善に役立てたいと考えております。以上、大変微力ではありますが、誠心誠意努力する所存であります。どうぞよろしくお願い致します。

助教授紹介



外科学第二講座 助教授

河野 透

私は生粋の道産子ではありませんが、母方が旭川に縁があり本大学に入学し、20年以上旭川、医大に暮らしている外科医です。専門は臨床、研究領域ともに炎症性腸疾患、大腸癌と消化管を主に行っています。先日もヘリコプターで潰瘍性大腸炎の患者さんが釧路の病院から搬送されるなど、全道から患者さんが集まってきていることを日々の仕事の励みとして頑張っています。患者数の増加に伴い、手術部、ICUをはじめ多くの分野の方々に支えられていることをこの場を借りてお礼を申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



保健管理センター 助教授

川村 祐一郎

昭和56年卒の3期生です。永らく第1内科に所属し、主に循環器疾患の診療・研究に携わっていましたが、本年独法化とほぼ期を一にして現職、並びに当学の産業医を拝命しました。即ち学生諸君・職員の皆様の安全・健康管理が主業務となったわけです。専門寄りの意見で恐縮ですが、心血管病のリスクに関わる生活習慣病の兆しは若い頃から、しかも音もなく（症状なく）忍び寄ってきます。その予防には医療者の努力に加えご本人の自意識というものが大変重要です。皆さん一緒に健康な学校・職場を作っていきましょう。



眼科学講座 助教授

石子 智士

本学9期卒業生です。学生時代はアップルズ（ソフトテニス部）に所属していましたが、自分が顧問になるとは思ってもいませんでした。大学院時代は実験動物を用いた近視の基礎研究を行い、修了後は眼底画像診断と視機能評価に関する臨床研究を行ってきました。ハーバード大学留学を通じて、単に視機能を評価するだけではなく低視力の患者に対し残された視機能をいかに用いるかを考えるロービジョンケアへの関心も広がりました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



薬剤部 助教授

田崎 嘉一

本年8月1日より薬剤部助教授として着任致しました。東京大学大学院博士課程修了後、山之内製薬で中枢神経変性疾患を中心に創薬基礎研究に携わっていましたが、医薬品が実際に使われる現場での仕事と教育研究にやりがいを感じ、転職した次第です。関東以外に住むのは初めてのことで、雪はねという言葉も知りませんでしたが、大自然を満喫しながら、微力ではありますが、旭川医科大学と附属病院発展のために尽くしていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本学のホームページがリニューアルされました



本学のホームページが今秋からデザイン一新、リニューアルされより見やすく、親しみやすくなりました。

広報誌「かぐらおか」につきましても、トップページの「大学案内」のタブをクリックしたのち、「広報誌」を引き続きクリックしていただくと、4号分の「かぐらおか」等を閲覧できるようになっております。

（インターネットにより閲覧される父母の方々に、本誌の送付が不要とお考えになられる方については、その旨学生課にご連絡いただきますよう、お知らせいたしております。）

（学生課）

外国人留学生交流事業

平成16年度外国人留学生秋季オリエンテーションが、10月28日（木）に行われ在籍留学生10人中3人と、その家族2人、チューター1人、職員2人の計12人が参加しました。

例年は夏の行事でしたが、今年は中国から9月22日に劉 曉宇（リュウ ショウユ）さん、10月4日に鄒 奕洁（ショウ イージュ）さんの2人が新たに留学生として来日されることから、秋の行事としました。

月形町の皆楽公園パークゴルフ場では半数以上が初めてということで、一打ごとに歓声を上げながら楽しんでいました。

その後、近くの樺戸博物館を見学しました。ここは昔樺戸監獄と呼ばれ、初代の典獄、月形 潔の名

前が町の名前になりました。北海道開拓の頃、囚人を使って、樺戸、空知太、上川（現在の月形、浦臼、砂川、滝川、旭川等）から網走までの道を切り開かせました。交通手段が石狩川を船で行き来するしかない頃に、原始林を道路にするという重労働です。後に囚人が減ってくると、中国、朝鮮からの強制連行となりました。

温故知新——昔の出来事を知り、開拓のために尽くされた先人に感謝をしながら、学問・研究にいられた留学生と、より深く友好関係を築ければと思いました。

帰りは浦臼町の、しいたけ飯店にて食事と共に交流会を行いました。



クリニカルクラークシップを経験して



医学科第5学年

寺田 祥子

私はまだ内科を回っていませんが、この半年で経験したクリニカルクラークシップについて書きたいと思います。初めに私が感じたのは、見学型ではなく参加型の実習をさせて下さる科が予想以上にあることです。先生と一緒に患者さんの診察や医療面接を行ったり、カルテを書いたり、日常の医療に参加する機会が数多くあります。患者さんとふれあうと、見ていっただけでは頭に入らないことも記憶に残りやすいように感じます。

私はまだ学生で診察や簡単な検査や処置も慣れていません。指導医の先生が患者さんから同意をとって下さるのですが、多くの患者さんが同意して下さることも私にとっては驚きの一つでした。指導医の先生方と患者さんの間に信頼関係が強いからだと思います。そのおかげで参加型という言葉通り、採血や皮内テスト、手術での縫合・結紮などを患者さんにさせてもらえました。自分で何度も練習していても、やっぱり患者さんにやる時は緊張してしまいます。

4月にクリニカルクラークシップを回り始めた時、

私は壊滅的にプレゼンが下手でした。まだ本当に要点を押さえたプレゼンはできませんが、当初に比べればだいぶましになったと思います。(^^;) 外科では術前のプレゼンや術後の経過の簡単な報告など、毎日のように発表することがあります。先生方にアドバイスを頂いたり、同級生や6年生の先輩に分からないことを聞いて何回もプレゼンを繰り返すうちに苦手意識が薄れてきました。超がつくぐらいあがり症な私にとって人前で話すことに慣れたことも大きな進歩でした。

最後に、私が一番強く感じることは、クリニカルクラークシップは社会勉強だということです。医療チームの一員として参加していると、先生方以外に看護師さん、クラークさんや看護学生さんなどいろんな方と関わる機会があります。摂子の持ち方さえも知らなかった私に持ち方から清潔操作まで指導して下さいしたのは看護師さんでした。プレゼンに使う画像やカルテの取り寄せのことでクラークさんにも迷惑をかけてしまいました。いつもいろんな方に支えられて実習をしているのだと実感します。実習で指導してくださっている先生方や他のスタッフの皆さん、いつも本当にありがとうございます。残りの実習もできるだけ多くのことを学び、有意義な実習にしたいです。

解剖実習を終えて



医学科第3学年

佐賀 智之

解剖実習の初日を迎えたのは昨年の10月であった。編入生の私にとっては入学してわずか数日後のことであり、いよいよ医学部に入学したことを強く実感した。ご遺体を前に初めは躊躇もあったが、生前のご意志に応えるためにも、できる限り多くを剖出し、目や触覚に焼きつけようと努力した。

それからの数ヶ月は驚きの連続であった。巧妙に接続される筋・骨、それらに配線する神経、全身を配管する脈管、エンジンを思わせる心臓、レンズそのものの水晶体、これらを操る脳脊髄。誰かが設計した精密機械のようなこの集合体が、肉眼では見えないミクロな事象と連携して生命を司る。この神秘的な光景に畏敬の念を感じずには居られなかった。

こうして、実習に没頭するとともに時おり疲労もあったが、実習毎の黙祷では初心でご遺体と向き合

い「お願いします」と心で唱えた。納棺、慰霊式では故人のお名前やご家族を目にし、その歩まれた人生や、ご献体という大変な決断を医学教育のためになされたことを思い、感謝の念で胸が熱くなった。

三年生となった今、臨床医学を学ぶ中で解剖学的知識の重要性を改めて感じている。病態を理解するには人体構造の知識が不可欠なのである。そして、解剖実習の経験は確実に日々の勉強の助けになっている。授業中、触覚を伴った記憶が三次元で蘇る。

さて、この度の解剖実習の成否は今後の私達次第である。得た知識や経験を良い医療に還元できて初めて、故人のご意志に応えることができよう。実習を終え実践の段階へと一步踏み出したばかりの私達であるが、技術・知識・人間性を備えた良い医師として社会に貢献できるよう努力していきたい。

最後に、貴重な機会を与えて下さった故人とご家族、教育・準備等にご尽力頂いた解剖学講座を始めとする関係各位に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

解剖実習を迎えて



医学科第2学年

上坂 貴洋

10月から始まった解剖実習は現在、全日程の約半分が終了したところだ。先生方の熱意あふれるご指導のもと、私達は班で話し合いながら、ご遺体を解剖し、体内の構造を直に観察するという実習を行っている。始めは戸惑うことも少なくなかったが、実習を重ねる毎に要領がつかめてきて、皆思うように実習が進められるようになったと思う。この実習は、私達が医学生であることを強く実感させるものであり、そのせいもあってか、皆、これまで以上に集中して実習に取り組んでいるのではないと思う。

この実習を通じて強く感じるのは、人間の身体は本当によくできているということ。骨や筋肉、神経などは無駄なく配置され、これらの仕組みには「なるほど」と思わずにはいられない。人体の構造を直に目にすることで、これらの仕組みに少しでも不具合が生じれば病になるということは容易に想像でき

る。このような状況にある患者さんのために、私達はこれから更に多くのことを学んでいかなければならないと思う。

実際にご遺体を解剖すると、人体の構造は必ずしも教科書通りではなく、また一人一人外見が異なるように、体内の構造にも個人差があるということが分かる。したがって目的とする構造物を見つけるのは結構大変なのだが、このように人の身体に個人差があるということは、臨床の現場においても重要ではないかと思う。患者さんは一人一人身体の構造に個人差があり、当然性格にも個人差がある。このことを十分考慮する姿勢が今後私達には求められるのであろうし、その意味でもこの実習は学ぶべきことが多いと思う。

解剖実習はこの後も2月まで続く。私は今年、祖母と父を亡くしたので、私達の実習のためにご遺体を提供して下さった故人や、故人を亡くされたご家族の思いを考えると、胸が痛むと同時に感謝の気持ちで一杯だ。故人やご家族の尊いご意志を無駄にしないよう、これからもまた努力しようと思う。

平成16年度前期における学生による授業評価 結果の公表にあたって

授業評価委員会委員長 近 藤 均

本学教員（常勤・非常勤）に対する学生による授業評価も、今回で4年目に入りました。平成16年度前期の結果をここに公表いたします。

公表の内容は従来の方針に則っています。すなわち、「講義に対する学生評価」に関しては、（1）評価を受けた全教員の得点分布、部局別教員の最高点と最低点。（2）同じく全教員のうち、得点が上位20%以内に入る教員の氏名・所属、評価を受けた科目（必修・選択の区別）とその日時・対象学生・履修者（登録者）数、評価用紙の配布数・回収数・回収率。（3）高得点の上位3名の教員の、個々の設問（問5～17）ごとの点数と教官自身によるコメント。以上の3点です。また、実習など「企画に対する評価」については、設問ごとの点数とコーディネーターによるコメントを掲載しました。

今年度の評価項目は、昨年度以前のものと異なっています。本委員会では昨年、ほぼ1年間を費やして、学生・教員双方のさまざまな意見を踏まえた上で、鋭意、評価項目の見直し作業を行ってきました。新しい評価用紙では、従来のものと比べ、より客観的できめ細かい評価ができることをめざしました。学生からも「評価がしやすくなった」とおおむね好評をもって迎えられているようです。

このように、今年度からの評価項目は昨年度以前のものと異なっていますから、点数を単純に比較することはできませんし、そもそも点数にこだわることに、あまり意味はありません。学生による授業評価の最大のねらいは、これをきっかけにして教員が学生の声を真摯に受け止め、さらに授業の内容や方法について学生とコミュニケーションを深め、その結果を授業の改善につなげていくことにあります。

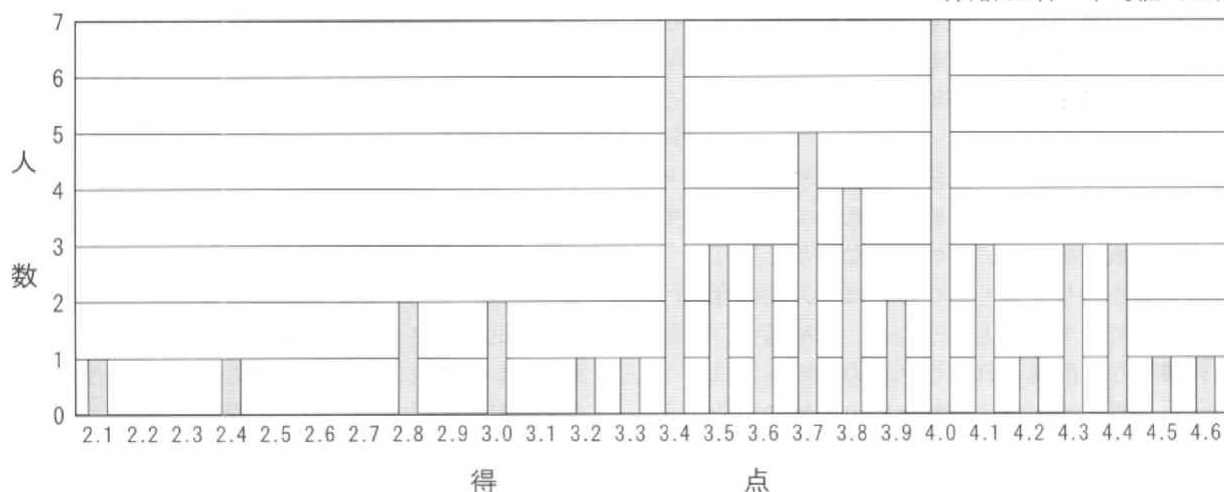
なお、本委員会では、発足時からの基本方針として、授業中における評価用紙の配布は、事務局員に任せるとはせず、なるべく委員自身が直接出向いて行なうことにしてきました。これは、評価の運営は授業に携わっている教員自身が主体となっていくべきもの、というポリシーに基づくものです。委員が教室に踏み込むと、思わず身構えてしまう方々や露骨に嫌悪感を示される方々もいらっしゃいますが、以上の主旨をよく御理解いただきたいと思います。

なお、委員が用紙の配布に赴くからといって、委員会のメンバーは個々の教員の評価点を知り得る立場にはないことを、念のため申し添えます。コンピュータ処理および教員への結果通知は学生課教務係に一任しております。

平成16年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

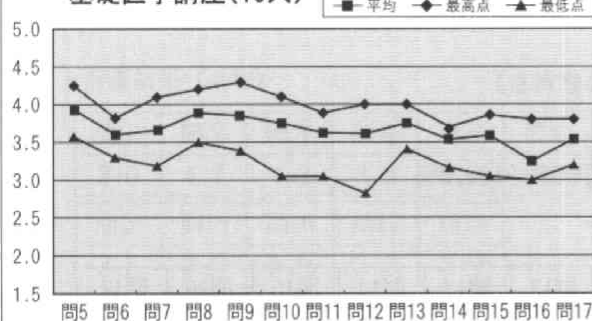
	得 点																			
	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0
人数	1	0	0	1	0	0	0	2	0	2	0	1	1	7	3	3	5	4	2	7

（合計51名 平均値 3.7）

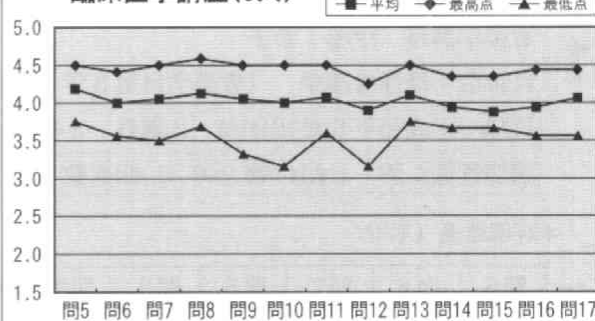


問5～17までの各平均点と最高・最低点

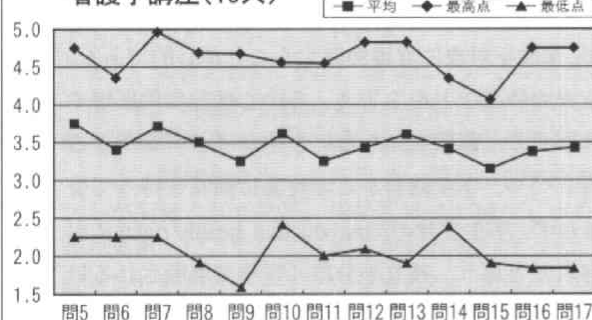
基礎医学講座(10人)



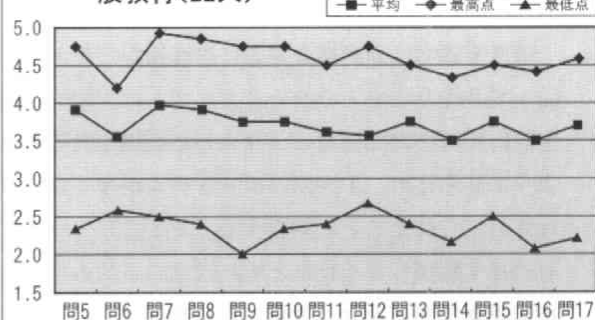
臨床医学講座(9人)



看護学講座(10人)



一般教育(22人)



講義に対する学生評価

あなた自身について	問1	事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2	授業に毎回出席しましたか。
	問3	授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4	授業の復習・宿題を毎回しましたか。
講義計画	問5	各回の講義はよく準備がなされていましたか。
	問6	履修要項は授業全体のポイントを理解する上で適切でしたか。
教育意欲・態度	問7	教育に対する情熱・熱意が感じられましたか。
	問8	学生に接する態度は授業担当者として適切でしたか。
講義技術・内容	問9	明瞭で聞きとりやすい話し方でしたか。
	問10	教材(プリント・スライド・板書など)は適切でしたか。
	問11	講義において重要ポイントを強調してくれましたか。
	問12	学生の反応を確かめながら講義していましたか。
	問13	豊富な知識があり、かつ説明が論理的でしたか。
	問14	授業の難易度は適切でしたか。
	問15	各回の講義内容は量的に適切でしたか。
	問16	今後の学習意欲を増す内容でしたか。
総合評価	問17	この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う(非常に良い)
- ④ やや思う(良い)
- ③ どちらとも言えない(普通)
- ② あまりそう思わない(あまり良くない)
- ① 全くそう思わない(良くない)

高得点者 TOP3

1 看護学講座 伊藤 幸子 科目名：母性看護学（看護学科第3学年前期／必修科目）

日時：平成16年6月10日(木) 2 講目

履修者数：59 配付数：46 回収数：46 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.3	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.8	4.8	4.3	3.6	4.7	4.7

*評価に対するコメント

母性看護学は周産期を中心に思春期から更・老年期まで、女性を対象に看護展開することが目的である。従って月経と妊娠・分娩のメカニズムは生理的変化、新生児の特徴などをふまえ、その心理社会的影響や生活に及ぼす変化に対し、介入の必要性や具体的方法を考察する。臨床を知らない学生がイメージできるように話すため、1コマのボリュームが多くなる点を反省しつつ、学生諸君がこの授業に興味を持って受け入れてくれたことに感謝する。また他者への看護のみならず、学生自身のreproductive health/rightsに引きつけて聴講してくれたとすれば私の目的の半分は達成されたと思う。残り半分は4学年で展開される母性看護学実習に役立つ講義であったか、という点である。

2 英語 内藤 永 科目名：医学英語 I A（医学科第1学年通年／必修科目）

日時：平成16年7月9日(金) 6 講目

履修者数：45 配付数：45 回収数：45 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.2	4.6	4.7	4.7	4.7	4.5	4.2	4.5	4.1	4.1	4.4	4.6

*評価に対するコメント

毎時間単語テストを課すためか、「きつい」との苦情(?)が寄せられていたこの授業が、高い評価を受けることは予想していませんでした。教材は、毎年学生からのアンケート、教育関連の研究会から得られる示唆を参考にして、英語力向上に必要なものだけを使用するように心がけてきました。今回の評価を受けて、今後も「きつい」授業を展開していきたいと思います。ただし、問14の難易度については、2名が「あまりそう思わない」としています。コメントからも難しい、量的に多いと感じる人もいます。この点については後期の終わりに再度調査し、次年度以降の授業では調整したいと思います。自由記載による意見は、授業改善に結びつきそうなヒントがいくつもありました。多謝。

3 英語 サイモン・N・ベイリィ

科目名：英語ⅠB（看護学科第1学年通年／必修科目）

日時：平成16年7月13日(火) 5講目

履修者数：30 配付数：30 回収数：30 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.2	4.8	4.8	4.3	4.4	4.2	4.7	4.2	4.3	4.5	4.3	4.4

*評価に対するコメント

学生がこの授業を高く評価してくれたことを嬉しく思っています。この評価は学生が授業中に実施した演習に刺激を受けたことを物語っていると思います。日頃、学生の興味を喚起し、学生のニーズに応えることをクラス運営の心がけとしています。また、授業は活動的で、相乗効果のある形態であることが重要と考えています。今回の評価から、教師としてその責務をある程度全うしたことを確認できました。学生のフィードバックから学ぶ良い機会となりました。その評価とコメントに感謝しています。

以下4.1以上(上位20%内)の教員は次のとおりです。

(五十音順)

所 属 名	教 官 名	科 目 名	日	時
内科学第三講座	綾 部 時 芳	生 命 科 学 X	平成16年9月8日(水)	1 講目
英 語	グエンドリン・ギャラガー	英 語 II A	平成16年7月12日(月)	4 講目
非 常 勤 講 師	坂 井 光 信	芸 術 学	平成16年6月4日(金)	2 講目
小 児 科 学 講 座	田 中 肇	総合臨床医学Ⅳ	平成16年9月3日(金)	1 講目
看 護 学 講 座	野 村 紀 子	感 染 看 護 学	平成16年7月9日(金)	1 講目
内科学第一講座	長谷部 直 幸	臓器別・系別講義Ⅰ	平成16年6月1日(火)	3 講目
生 命 科 学	林 要喜知	人 間 科 学 I	平成16年7月22日(金)	3 講目
非 常 勤 講 師	藤 尾 ミツ子	代 謝 栄 養 学	平成16年9月6日(月)	3 講目
放射線医学講座	峯 田 昌 之	総合臨床医学Ⅵ	平成16年8月31日(火)	4 講目

科 目 名		学 年	履修者数	配付数	回収数	回収率(%)
生 命 科 学 X	必 修	医 2	92	71	64	90.1
英 語 II A	必 修	看 2	32	32	32	100.0
芸 術 学	選 択		10	9	9	100.0
総合臨床医学Ⅳ	必 修	医 4	100	67	42	62.7
感 染 看 護 学	選 択	看 3	14	12	12	100.0
臓器別・系別講義Ⅰ	必 修	医 3	99	82	72	87.8
人 間 科 学 I	必 修	看 1	60	56	56	100.0
代 謝 栄 養 学	必 修	看 2	61	55	55	100.0
総合臨床医学Ⅵ	必 修	医 4	93	83	63	75.9

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目講成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：社会医学基礎Ⅰ（医学科第1学年前期）

履修者数：89 配付数：87 回収数：86 回収率：98.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.1	3.4	2.5	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.0	4.1
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2												

*評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅰコーディネーター 近藤 均

本科目は今年が開講3年目である。八竹学長と石川病院長がそれぞれ1コマ、残り13コマをコーディネーターの筆者が担当した。内容は、モデル・コア・カリのガイドブックにある「A. 基本事項」のうち、「医の原則（1）医の倫理と生命倫理」に準拠している。学長・病院長の講話（あるいは訓辞）は今後6年間にわたる学習の心構えを説いたもので、好評だったようである。ただ、手術や出産の場面が登場するインパクトの強いビデオを用いたため、モチベーションが高まったと答えた学生も多かった反面、気分が悪くなった学生も少なくなかったようである。来年度以降は取扱いを慎重にしたい。筆者に対しては自由記載欄に批判的意見は見られなかったが、相変わらず学生の方を見ないで一方的にまくしたてる授業をつづけている。来年度は何とか改善していきたい。また、後続の社会医学基礎Ⅱ～Ⅳやさらに後続の臨床医学概論Ⅰ～Ⅳの内容とも有機的連関が図れるように、コーディネーター間で話し合って生きたい。

科目名：生命科学Ⅰ（医学科第1学年前期）

履修者数：89 配付数：89 回収数：86 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.5	4.0	3.2	3.9	4.0	3.7	4.2	3.8	3.8	3.9	4.2	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅰコーディネーター 上 口 勇次郎

本科目は生物学を主体とした講義で、生命科学Ⅱ～Ⅺの基礎となる導入コースである。昨年と同様に今年も、講義企画の総合評価で比較的良好な評価(4.0)を受けた。しかし、「高校生物履修者に対する配慮がない」、「ボリューム過大」、「スライドの資料が欲しい」などの指摘も受けたので、講義内容にさらなる工夫・改良を加える余地がある。一方、「よい講義だった」、「高校生物の焼き直しでつまらない」などの意見もあり（おそらく高校生物履修者）、それらのギャップをどう埋め合わせるのかが難しい。入試制度（理科2科目選択制）やカリキュラム（リメディアル教育の位置づけ）の見直しも必要であろう。

ここ3年間、問1、4（授業を理解するために予習・復習をしたか）への学生自己評価が減少し続けている（3.8→3.3→3.1ポイント）。自学自習の努力の足りない学生が「講義を理解できない」と回答しているという面があるので、講義内容の安易な軽減には問題があると考えている。講義では敢えてspoon-feedingを差し控えているところもあるので、早く自学自習の態度を身につけてほしい。

科目名：生命科学Ⅱ（医学科第1学年前期）

履修者数：90 配付数：90 回収数：89 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.1	3.2	2.7	3.3	3.6	3.0	3.4	2.7	2.4	2.9	2.7	2.9
問14	問15	問16	問17	問18								
2.8												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅱコーディネーター 谷 本 光 穂

今年も昨年同様大変厳しい評価を下された。自由記載欄を読むと、「物理は難しい」という表現が非常に多いことが目に付いた。しかし、なかには「生物選択だったので初めはビミョーでしたけど、ちゃんと理解していったら物理も結構面白かったです」というコメントを見つけ、慰められる思いもした。昨年度の「もっとやさしく」との要望に答えるため、今年度は講義内容を大幅に減らした。その結果、交流分野（電磁気）を完全に外さざるを得なかった。インピーダンスの基本概念を知らない学生が巣立って行くことになる。しかし、評価を見ると努力はさっぱり報われていない。特に問10の結果では約半数の学生が十分理解できていない。今後はもっとやさしい本を教科書にするなど改善を試みたい。2年後の平成18年度には高校の新しい指導要領で学んできた学生が入学してくる。講義内容、方法の改善に向けたさらなる検討をしなければならないと考えている。また、現行のカリキュラムは、開講時期が一時期チュートリアルなどと平行し、週8コマといった超過密になっている時期があるので、自己学習しにくくなっていることも原因の一つと考えられる。カリキュラムの見直しも改善に向けて重要なポイントの一つであろう。

科目名：生命科学Ⅲ（医学科第1学年前期）

履修者数：90 配付数：90 回収数：84 回収率：93.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.3	3.9	3.3	3.7	4.0	3.9	4.1	3.7	3.5	3.7	3.4	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

*評価に対するコメント

生命科学Ⅲコーディネーター 山内 一也

生命科学Ⅲの授業内容は、コンピュータリテラシーと統計学の初歩を学ぶことにある。クラスをA組、B組の2クラスに分け、A組がコンピュータリテラシーを受けているときは、B組は統計学の授業を受けるというようにして、担当教員には負担増となるが、週2回の授業を展開した。「あなた自身について」という評価の項では、2.6、4.3、3.9、3.3という評価であるが、問1の事前に予習しましたかという評価が昨年に比べ極端に低いのはどう解釈したらよいのであろうか。出席状況の評価が高いのは、コンピュータリテラシーでは毎回レポートを提出しなければならないこと、統計学の授業では、毎回小テストを行い次回に解答例をつけて返却するという授業形態によるものと思われる。「科目構成」という評価の項では、3.7、4.0、3.9、4.1という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。「科目内容」という評価の項では、3.7、3.5、3.7、3.4、3.7という評価なので、授業内容にもう少し工夫を凝らす必要があるようである。「総合評価」という評価の項は、3.7なので一応の評価を受けたと思われる。

科目名：社会医学基礎Ⅲ（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：90 回収数：87 回収率：96.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.8	3.6	3.3	2.8	3.2	3.3	3.2	3.2	3.3	2.9	3.1	2.9	3.2
問14	問15	問16	問17	問18								
3.0												

*評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅲコーディネーター 田中 剛

本科目では「医療コミュニケーション論」を展開しています。評点から判断して、関連領域が多岐にわたるため受講者には負担感があつたのかもしれません。本科目の最終目標は医療情報学、対人コミュニケーションスキル、OSCEを貫く横軸になることですが、現段階ではコア・カリにうたわれている「患者中心型」が医療面接の現場でどのような波及効果をもつに至っているのかを、「医師－患者関係のコミュニケーション論」という枠組みで講じることに重点がおかれています。

来年度に向けての改善策としては、講義で使用する英文・和文教材の水準とテーマ関連性について再検討すること、90名を越える受講者を前にしてもなお「討論の時間」を導入すること。テーマごと、グループ別に課題レポートを書かせ、何度も文章チェックをすることなどです。これらをコンパクトな講義形態で実行する計画です。

科目名：生命科学Ⅶ（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：89 回収数：89 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	3.5	3.7	3.1	4.0	3.9	3.8	4.1	3.6	3.4	3.9	3.6	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅶコーディネーター 谷口 隆 信

生命科学Ⅶは昨年度のスタイルを踏襲し、代謝の基本的な部分になります。主な御意見は2つで先ず、難解であるが最も多く（8／16）、次がプリントのフォントが小さくて見辛い（4／16）でした。後者の方は早速改善したいと存じます。難易度について、確かに一昔前には3年生から始まっていた内容ですが、国家試験の早期実施やC B T／O S C E試験導入に向けてカリキュラム全体が前倒しになっている現状には御理解を頂きたいと存じます。講師としましては医学的に重要なポイントにはメリハリを付け分かりやすい解説を心がけたいと存じます。一方、医学知識は日々拡大し社会的要請も高まっているという現状を理解し、21世紀の医師を志す学生諸氏には、難解な課題に取り組み自ら進んで勉強するという学究的姿勢も身につけて頂く必要があると存じます。

科目名：生命科学Ⅷ（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：89 回収数：86 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	3.9	3.8	3.2	3.7	3.6	3.5	3.7	3.5	3.3	3.6	3.6	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅷコーディネーター 高 井 章

- 担当教員の講義の進め方に関する設問である問5-問14が平均3.6ポイントとなったことから、全体として、本実習科目が一定水準の成果を収めたと学生に評価されたものと考えられる。
- ただ、だいたい同じ日程と講義範囲で実施した昨年度の本科目の平均ポイントが4.2という高値だったのに比べると見劣りがすることは否めない。特に問10が3.3ポイントであったのが目立ち、全体として講義の内容がわかりにくいという印象を与えたようである。本形式による講義の初年度であった昨年の「好成績」に気を許して、やや散漫冗長に流れたというようなことはなかっただろうか。教員側としては、反省点の残るところである。
- 「自由記載覧」に書かれた意見のうち、学習内容の分量の多さ、講義テーマの偏り、講義内容と試験出題内容の不一致などに関するものが目立った。上記の反省点との関連において、来年度の講義に生かしていく必要がある。

科目名：生命科学X（医学科第2学年前期）

履修者数：92 配付数：72 回収数：65 回収率：90.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.1	4.0	3.3	3.8	3.5	3.7	3.9	3.6	3.5	3.7	3.8	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

*評価に対するコメント

生命科学Xコーディネーター 若宮伸隆

免疫学の講義を大変革して3年目になり、各教員の準備が整った反面、新鮮味が薄れたのか、昨年より履修目的達成（評価4.2→3.7）や総合的満足度（4.1→3.7）が若干低下している。学生からの注文としては、「複数教員による講義のために、重複する講義がある？」という指摘を受けた。学生にとっては、初めての複数教員による講義のためにでた不満であると印象を受けたが、来年は再度、講義順の変更も含めて、重複を防ぐための調整を教員間で行う予定である。

また、昨年要望のでた、講義のはじめに免疫学概論の時間を増やしたのは、概ね好評であった。

担当責任者としては、生化学・分子生物学・遺伝学などを包括する総合科学である免疫学の面白さを学生諸君に感じていただければと願っている。

科目名：生命科学XI（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：91 回収数：88 回収率：96.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.3	3.7	3.2	3.8	3.6	3.7	4.0	3.5	3.3	3.6	3.5	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

*評価に対するコメント

生命科学XIコーディネーター 田中邦雄

本科目は今年で2年目になったが、総合評価は3.6と昨年とほぼ同様であった。

評価内容を詳細に見ると、まず学生自身の評価として、出席状況以外では予習、復習は3.1、3.2と低めではあったが講義の出席率は高く、熱心に聴いている学生も多かった。科目構成に関する問5～問8の評点が3.6～4.0であり、本科目を企画した狙いは理解されていると考える。科目内容については、問10の理解のしやすさが3.3と他の項目に比べて最も低い評価であった。また、意見記載欄にも内容が難しく、理解しづらいとの意見が何件も見られた。物理・工学的内容が多く、また生理学や解剖学などの履修前ということも関係しているものと考えられる。しかし、試験が難しいとの意見があるものの成績は平均76点と全体的に良好であった。また、総合評価も平均3.6ではあるが学生の半数以上は4以上をつけていることから、まずまずの結果と考える。引き続き評価の向上を目指して努力していきたい。

科目名：臨床医学概論Ⅰ（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：98 回収数：97 回収率：99.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.5	3.6	2.5	3.9	3.4	3.7	3.9	3.7	3.5	3.7	3.4	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

＊評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅰコーディネーター 近 藤 均

この科目は平成14年度からのいわゆる「新・新カリキュラム」で初めて設けられ、本年度が初めての開講である。全15コマのうち、吉田貴彦教授をはじめとする健康科学講座のスタッフが8コマ、塩野副学長（法医学）が2コマ、残り5コマをコーディネーターである筆者（歴史・哲学）が担当した。内容は、モデル・コアのガイドブックにある「A. 基本事項」の発展的な部分および「F. 医学・医療と社会」の基礎的な部分に準拠している。一見、「臨床医学概論」という看板とは齟齬するような主題も盛り込んであるが、キーワードは、臨床現場において要請される医師の「倫理」である。おそらくは、内容が多岐にわたり、しかもスタッフの不慣れや意思不統一もあったためであろうが、評価はさほど高くなかった。

自由記載欄に見られた学生の主な批判的意見としては、①「臨床医学序論」との違いが明確でない。②教員の間で（難易度に）差があった。③内容の重複が多々見られた。④テストが難しかった。⑤スライドがわかりにくかった。以上が目立った。来年度に向けて、内容も形式も大幅に再検討していきたい。

科目名：臨床医学序論（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：98 回収数：98 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.6	3.7	3.0	3.3	3.0	3.3	3.4	3.5	3.4	3.3	3.2	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4												

＊評価に対するコメント

臨床医学序論コーディネーター 奥 村 利 勝

出席率の高さ(4.6)以外は軒並み3.0-3.5と決して満足できるものではなかった。

この大きな原因は学生からのコメントにも多数みられたように、他の一連の講義（医学概論、医療情報）との重複する内容が多かったことが挙げられると考えられる。今年の医学科3年生から新規に開講された臨床医学序論は、その担当する内容をいわゆる臓器別系統講義とは異なった臨床医学総論を意識して各15コマの講義を構成したが、医学概論などと重複した部分は今後、お互いに調整し重複をさけることが緊急課題として挙げられる。総括的に見ると改善の余地はまだ残されているが、講義の一つ一つを考えれば、黒田元学長の『医の倫理』に関する講義は学生から大好評であったことも忘れてはいけない。いい所は残し、悪い点は改善する方向で次年度からの講義の編成を再構築する。

科目名：医療情報学（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：97 回収数：96 回収率：99.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.2	3.4	2.8	3.4	3.2	3.4	3.7	3.3	3.0	3.3	3.0	3.2
問14	問15	問16	問17	問18								
3.1												

*評価に対するコメント

医療情報学コーディネーター 廣 川 博 之

医療情報学は本年度から始まった科目で、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理システム、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマ構成した。これらはいずれも医療情報学で扱う重要な領域であるが、学生諸君から内容が難しすぎる、焦点が絞られていない、といった指摘をいただいた。医療情報学そのものが新しくできた学問であり、授業の時期も臨床医学を学ぶ前であるため、理解しがたい面があったかと思われる。また、内容が一部重複しているという指摘や、カルテの書き方を講義してほしいという要望もあった。

今回の評価結果を参考に、来年度の授業内容を改善する予定である。

科目名：臓器別・系別講義Ⅰ（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：99 回収数：99 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.5	4.2	4.0	3.4	3.8	3.6	3.3	3.7	3.4	3.4	3.6	3.9	3.1
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

*評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅰコーディネーター 菊 池 健次郎

新々カリキュラムに従い、本年度から始まった臓器別・系別の最初の講義である。循環器・呼吸器に関わる全ての内容を盛り込む形でカリキュラムを編成したが、学生の反応を見ると内容が広範・膨大であり、授業のフォローに困難を感じる意見が少なからずあった。臨床講義開始直後に循環器・呼吸器に関する全ての理解を求める講義が連日続くのは、確かにハードであったと思う。以前は2年間かけてじっくり教えていたものを、3～4ヶ月で90コマに集中するので、講義する先生方にもかなり戸惑いがみられ、特に多忙な診療・手術・出張・研究活動の中で、皆さんスケジュール調整に苦心していただいた。結果として講義スケジュールの変更を余儀なくされ、各論と総論が逆の順番になるなど、学生には申し訳ない面もあった。多くの学生の意見は、もっと時間をかけて欲しいというものであったが、カリキュラム上はこれが精一杯かと思われる。講義内容の改善を求める意見は、各担当者にフィードバックして検討していただくこととした。その意味では、全授業に対して、各担当者に逐一具体的な指摘が可能となる評価システムが求められるのではないだろうか。

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：99 回収数：96 回収率：97.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.1	4.0	3.3	3.6	3.6	3.6	3.9	3.5	3.6	3.7	4.0	3.4
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅳコーディネーター 葛西 真一

臓器別・系別講義Ⅳは消化器病学の診断と治療全体について、主に第二内科、第三内科、第二外科が担当して第3学年前期に集中して行われる。内科と外科が極力重複しない様工夫したが、3.6～3.9ポイントの構成評価は良かったのではないかと。また、集中的に同一主題が講義されるので、膨大な量にもかかわらず3.4～4.0ポイントの内容評価は合格点であろう。試験までの期間が短いことや、多量の問題数に戸惑いと多少の不満がある様で、最高点81点、平均点68点、60点未満が14人という結果もそれを裏づけると思われるが、国試の大変さを思えば、いままじの自己努力が必要ではないだろうか。

科目名：総合臨床医学Ⅳ（医学科第4学年前期）

履修者数：93 配付数：92 回収数：92 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.0	3.7	2.9	3.8	3.5	3.4	3.8	3.3	3.2	3.5	3.6	3.2
問14	問15	問16	問17	問18								
3.5												

＊評価に対するコメント

総合臨床医学Ⅳコーディネーター 藤枝 憲二

総合臨床医学Ⅳは代謝・内分泌・免疫・腎・泌尿器といった広範囲の内容を、内科学、小児科学、泌尿器学の各視点から系統的に学習することを目的として設定されたコースである。広範囲の授業内容であるにも関わらず、内容はよく、またわかりやすかったとする意見が多く、講義を担当したものの熱意とコースの意図が十分に理解されたものと判断される。コメントに、試験問題が難しい、また授業内容より細かい試験問題があったとの指摘がみられた。しかしながら自学自習を問う点が2.9点と低く、試験問題が例年に比べ難しいものではないにも関わらず試験の平均点が64点と余りよくなかったことは、学生へのメッセージにもあるように授業そのものは学習すべき事項を提示するにとどまるものであること、また国家試験合格のみを目的とした授業ではなく将来にわたり有益な情報を伝えることを主眼としていることを理解し、より一層の自学自習が必要とされることを再確認してほしい。ただし一部履修主題について時間的制約がみられること、また授業内容の難易度に差がみられたとの指摘があることから今後当コースにおける各履修科目の配分についての見直し、授業手法について事前の打ち合わせも必要であると感じた。

科目名：総合臨床医学Ⅴ（医学科第4学年前期）

履修者数：93 配付数：92 回収数：91 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.2	4.0	3.0	4.0	4.1	3.8	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

総合臨床医学Ⅴコーディネーター 吉田晃敏

総合臨床医学Ⅴでは、第二内科、整形外科、歯科口腔外科、耳鼻科、皮膚科、眼科の6科が、それぞれ2、5、2、9、6、6コマを講義した。学生の評価は4.0前後で好評であったが、多くの科で講義しているため、全体としてのまとまりに欠けている科目であり、また科によっては講義内容に重複があったことが指摘された。この点を来年度は改善したい。各科は学生に講義内容に興味をもてるように、工夫しており、その結果は、学生の非常に良い試験成績にも反映していたと思う。国家試験では短い時間で多くの分野から多くの問題が出される。忘れかけていた大学入試におけるスピーディな設問に対する解答を、もう一度思い出してほしい。時代のキーワードは「スピード」である。

科目名：総合臨床医学Ⅵ（医学科第4学年前期）

履修者数：93 配付数：90 回収数：90 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.0	3.8	3.0	3.8	3.8	3.6	3.9	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

総合臨床医学Ⅵコーディネーター 油野民雄

総合臨床医学Ⅵは精神神経系疾患の病因、病態、診断、治療および予後などをテーマに、第一内科、小児科、精神科、脳神経外科、放射線科の各講座が担当した。このコースの問題点は、精神神経疾患の専門家ではないにも拘わらず放射線医学講座の教授でもコーディネーターをつとめなければならないこと、さらに各講座担当の総コマ数を旧カリキュラム時代のコマ数に一致させるとの前提で設定されたために、このコースでは直接関係の無い放射線医学関連の授業が数コマ組み入れられることになった（学生より、この点に関して改善を求める声が多かった）こと等があげられた。このような問題があることを自覚しながら、何ら抜本的な改善策を講じることなく、3年間コーディネーターをつとめてきたが、得られた評価はいずれの項目とも3点台であり、正直いってほっとしている。この精神神経領域の統合科目は今年度で終了するが、来年度は新たな装いのもとに、新々カリキュラムとして発足する。そのなかに放射線医学講座も参加するが、精神神経領域の画像診断と放射線治療に限定して担当することになる。したがって、新カリキュラムでみられた問題点が、新々カリキュラムで解消され充実した内容となることを期待している。

科目名：人間科学Ⅰ（看護学科第1学年前期）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.8	4.0	2.6	3.9	4.2	4.0	4.1	3.7	4.0	3.9	4.4	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
4.3												

*評価に対するコメント

人間科学Ⅰコーディネーター 林 要喜知

科目構成や内容、および総合評価に対する学生評価は平均4.04であり、数字的には概ね納得できる評価だろう。これらの項目の中で学生が高く評価した点は、問12の「科目全体が学習意欲をますものであったか」（評価点4.4）であったが、逆に、問9の「各履修課題の難易度は適切であったか」については、3.7とやや厳しい採点であった。これは、三教員によるオムニバス方式のマイナス面を学生が感じたためかもしれない。今後、各教員間の教育内容に整合性を持たせつつ、統一的な内容に改めていくべきであると反省している。一方、この授業科目が始まって3年になるが、問1や4に関する「受講前後の学生自身による学習姿勢」は、なかなか改善されない。即ち、学生が、予習や復習に時間をあまり割いていないことである。講義内容に対する意欲や興味を育むだけでなく、適度な緊張をもった教育内容に改善することで、学生の自主性を促す講義を展開していきたいと考えている。同時に、補習授業の開講やオフィスアワーの活用等により、講義期間中の疑問や質問にきめ細かく応える体制整備を進めている。

科目名：人間科学Ⅲ（看護学科第1学年前期）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.0	4.6	3.4	2.3	3.3	4.0	3.7	3.8	3.5	3.2	3.3	3.1	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4												

*評価に対するコメント

人間科学Ⅲコーディネーター 谷 本 光 穂

評価結果の総合平均値は3.4であ、昨年と同じ値でした。あまり改善の効果は出ていないようですが、概ね評価は良かったと思います。この科目は物理と化学の2分野で構成されています。自由記載欄を読んで、高校で物理や化学を履修していない学生には少々重荷だったようですが、両分野とも概ね良い印象を持っているようでした。関連する人間科学実習（後期開講）を履修することにより、さらにこれ等の分野の知識、考え方を身につけてもらいたいと思います。今後、講義内容や方法を更に改善してわかりやすい楽しい講義にしていきたいと思っています。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配付された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配付された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：生命科学実習Ⅰ（医学科第1学年前期）

履修者数：89 配付数：87 回収数：87 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.8	4.6	4.3	4.6	4.0	4.7	4.4	3.7	4.1	3.9	3.9	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1	4.0	4.4	4.3	4.4								

*評価に対するコメント

生命科学実習Ⅰコーディネーター 上 口 勇次郎

生命科学実習Ⅰは、医学科学生入学して最初に取り組む実習科目で、その後に展開される生命科学実習Ⅱ～Ⅷの入門コースである。学生の自己評価では、出席（問2）と積極的かつ真面目な参加（問3）が高い評価だった。この点は学生の自負するところであり、教員としても高く評価している。また、予習が不十分という自己反省（問1）もそのとおりで、この点に教員側が如何に適切な指導を行うかが課題である。実習計画、実習内容、実習環境など教員側の企画（問4～17）の点では、昨年と同様に学生の評価が比較的高く、総合評価で4.4という評点だったので、今後も小さな改善を重ねつつ、基本的には現行の実習形態を続ける予定である。問9で実習と講義の内容関連性が不十分との指摘を受けた（評点3.7）。昨年も同じ指摘を受けており、改善を考えていたが、今年は学会（全国大会）を旭川で主催することになり、その準備および開催日程の都合により実習を夏休み前に集中させなければならない羽目になってしまった。誠に申し訳ない。

科目名：生命科学実習Ⅴ（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：89 回収数：89 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.7	4.2	3.9	4.0	3.7	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	3.8	3.9	3.8	3.9								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅴコーディネーター 高橋雅治

学生自身についての評価では、問2（積極的参加）と問3（取り組み）の評価が高かった。実際、受講者は熱心に実習に取り組んでいた。一方、問1（予習）の評価は低かった。これは、予習の指導が不十分であったためであると思われる。

また、実習の計画、内容、環境についての評価はすべての項目が「普通」から「良い」の範囲（3.6～4.0）であった。評価が比較的高かった項目は、問5（スケジュール）と問7（指導能力）であった。このことから、実習全体のスケジュールと指導者の準備・配置については適切であったように思われる。

一方、評価の低かった項目は、問6（指導教員数）と問13（レポートの量）であった。これは、助手ポストが削減された結果、実習指導者が減少したため、および、毎回課した実験レポートが学生にとって大きな負担となっているためと思われる。従って、今後は実習指導者数の充実、および、課題レポートの軽減に取り組んでいくことが望まれる。また、心理学系と社会学系の評価を分離してほしいという記述も見られた。今後はカリキュラム全体の改編も検討する必要があると思われる。

科目名：生命科学実習Ⅵ（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：91 回収数：91 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.6	4.9	4.4	4.2	4.3	3.9	3.8	3.6	4.0	4.3	4.0	3.8	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6	3.2	3.8	3.7	3.9								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅵコーディネーター 鈴木裕

新カリ第3学年前期の基礎医学実習Ⅰ・生化学分野を、新新カリ第2学年前期の生命科学実習Ⅵとして実施して2回目である。（旧基礎医学実習Ⅰ・化学実験／バイオインフォマティクスは生命科学実習Ⅲとして実施した。）生命科学Ⅷ、Ⅸにおける生化学分野の講義が第2学年前期に集中することにあわせ、その過程で実習を展開するものとして計画した。このもくろみは良き評価を得、生化学・基礎医学に対する親和性と興味、理解の促進に繋がった。実習ではほとんどの学生が自ら興味を持って積極的に取り組み、問題を見つけ解決する姿勢が随所に見られ、教員側の期待と学生の姿勢がよく一致した。これは“あなた自身について”の問1～3の評価値（4.6（予習）、4.9（毎回出席）、4.4（積極的参加））に顕著に現れていた。問題点として指摘された主な2点は、設備の性能と量（問15、3.2）および指導教員間の差異（問8、3.6）である。設備に関しては予算など困難な問題もあるが、年々努力して改善したい。また教員全員で指導方針“学生に密着した丁寧な指導”を確認して実施しているが、検討・改善したい。さらに詳細な実習書作成と均一・一律的指導を検討する。他方、各教員それぞれが持つ高くユニークなポテンシャルを感じることができた学生諸君も多くいたことは大変喜ばしい。これは学生諸君の高いモチベーションにより可能となった。今後も高いレベルで、学生－教員の接触の場としての実習が機能するようさらに努力したい。

科目名：生命科学実習Ⅶ（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：91 回収数：88 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.6	4.3	3.7	4.1	3.8	3.9	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7	3.6	3.7	3.7	3.8								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅶコーディネーター 伊藤喜久

本年度も、各担当講座の協力を得て概ね皆さんに満足頂く実習を実施できた事を嬉しく思っております。昨年に比べ予習する方が増え、積極的な姿勢で実習に臨む流れが生まれてきています。全員の学生に対して、教員3-4名で担当する状況の中で、教員はよく健闘努力しておられると思います。これからも教員同士が互いに連携し、さらに実習内容に系統性を持たせるなど、より充実した実習の実現を目指して行きたいと考えます。また、より興味を持って効率的な実習ができるよう、講義や他の実習と関連性を持たせる必要があり、新たにカリキュラム編成の際には、皆さんからの要望事項を反映させて改善を図ります。毎年出される実習器具の不足は、基本的には各担当教室での対応によりますが、来年度の教育設備費等により改善がはかれることを期待します。

科目名：生命科学実習Ⅷ（医学科第2学年前期）

履修者数：91 配付数：87 回収数：82 回収率：94.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.5	4.8	4.4	3.9	4.2	3.5	3.9	3.6	3.7	4.0	3.7	3.8	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	3.7	3.9	4.0	3.9								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅷコーディネーター 中村正雄

昨年度新しいカリキュラムに対応して生命科学実習Ⅷがスタートした。実習内容の不整合性（生命科学実習、解剖学実習）に対応する当初の不安は教員側の説明で学生諸君に理解していただき、初年度は比較的良好な評価を得たと考えている。実習内容も学生諸君から良い評価を受けていた。

今年度は全般的に評価を下けている。特に評価を下げた問6、問8は昨年改善を指摘された指導教員の不足、および指導担当者間の連携についての項目である。指導教員同士の連携から改善を検討したいと考える。

科目名：基礎医学学習Ⅱ（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：94 回収数：94 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.9	4.7	4.5	4.1	4.1	4.0	4.2	3.9	3.9	4.3	3.8	3.7	3.3
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7	3.7	4.0	3.8	3.8								

*評価に対するコメント

基礎医学学習Ⅱコーディネーター 高 井 章

- 本科目は、かつて2年前期に45コマで実施していた「人体生理学実習」を、3年前期に移動し90コマで実施したものである。前半は生理学の教員が第一内科の教員の協力を得て従来とほぼ同じ「人体生理学実習」として実施し、後半は臨床4講座担当の「臨床医学検査の実例提示」とした。
- 実習の進め方に関する設問である問5-問14が平均で3.9とまずまずのポイントを得たことから、本実習科目は全体として一定水準の成果を収めたと学生に評価されたものと考えてよいだろう。
- 問13が3.3となっているのは、生理学実習レポートの負荷が学生にやや重く感じられたものであろうが、実習レポートとして特に過重であったとは思われない。なお、「人体生理学実習」の部分については、実習終了後の試験期間に試験を行った。「自由記入欄」に、この試験の時間的負担が大きいのという訴えがあった。来年度は、試験を実習に割り当てられた期間内に行うことも検討したい。
- 同じく「自由記入欄」に書かれた意見の中で特に目立ったのは、「臨床医学検査の実例提示」の位置づけに関する学生の戸惑いである。以前の倍のコマ数を出来るだけ充実したものにすべく、臨床講座の先生方には非常な御無理を御願いし多大の御協力を頂いたが、全90コマという時間配分は、現状ではいわゆる「マン・パワー」の観点からも余りに困難があるといわざるを得ない。

科目名：基礎医学実習Ⅲ（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：94 回収数：94 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.1	4.7	4.5	4.3	4.5	4.1	4.4	4.2	4.3	4.4	4.2	4.3	4.4
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.1	4.2	4.3	4.3								

*評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅲコーディネーター 牛 首 文 隆

基礎医学実習Ⅲでは、動物や標本に投与した薬物の作用を観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、薬理学に対する理解を深めることを目的としている。実習内容は、丸ごとの動物から摘出臓器を用いた実験と多岐にわたり、併せて薬液の調整法、薬物投与法、実験データの処理法、グラフの表現法、口頭発表の仕方などの指導にも力を入れている。実習では、講義だけでは理解しにくい薬物の効果を、実際に動物で観察できるとあって、多くの学生が興味をもって臨んでいたようである。評点も各項目にわたり4点以上であったことから、学生にとって満足できる内容の実習を提供することができたと考えている。しかし、なかには予想どおりの結果を得るのが難しい実験もあり、数人の学生からもその旨の意見をいただいた。これに関しては、今後、内容や条件等の見直しを図っていきたく思っている。

科目名：基礎医学学習Ⅳ（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：97 回収数：95 回収率：97.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.8	4.7	4.5	4.2	4.3	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9	3.9	4.1	4.1	4.1								

*評価に対するコメント

基礎医学学習Ⅳコーディネーター 若宮伸隆

ほぼ全員が積極的に実習に参加し（評価4.5）、実習全体の満足度は高く（評価4.1）、実習の総合評価においては約8割の学生が良い以上の評価をしている。全体では、昨年の評価と比較して8割以上の項目で、実習に対する学生評価は上昇している。個別の評価点からの推測では、学生の予習が、若干上昇したが(3.5→3.9)、まだ不十分であり、早期の実習書の配布ばかりでなく、実習前に簡単な宿題を課すなど、予習のための具体策を検討している。また、設備面では、安全対策として、2カ年かけて新規オートクレーブ設置が学内処置として行われた。学生から安全対策面は評価されたが、微生物観察のための光学顕微鏡が老朽化しており、この面での設備改善が必要との意見も寄せられた。総合的にみれば、学生評価からみて、微生物・寄生虫学関連の基礎医学実習の目的は達せられていると考える。

科目名：基礎医学実習Ⅴ（医学科第3学年前期）

履修者数：99 配付数：97 回収数：96 回収率：99.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.6	4.2	4.0	4.2	3.9	4.2	3.9	3.9	3.8	3.7	3.8	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7	3.7	4.0	4.1	3.9								

*評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅴコーディネーター 立野正敏

実習が終了してから評価の間に少し時間があつたため、学生諸子の記憶が薄れてきているかも知れませんが、大事な点はしっかりと記憶にありコメントとして現れていると思います。スライドのクオリティーですが、ずっと気になっています。全部を一度に変えるのは困難なので少しずつ新しいものに変えて行こうと思います。系統講義あるいは臨床と連携した時間がとれれば学生の理解も深まると分かっていますが、今の時間割では困難です。2年次”基礎Ⅰ”で系統的にやり、3年次に”基礎医学実習”で復習をかねて組織に接し、5・6年次に”選択必修コース”の中でCPCのような形で臨床との間を埋めることが出来れば良いと考えています。また、”臨床アドバンスコース”で手術材料や剖検材料に実際に接してみるのはいかがでしょうか？

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期）

履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.4	4.1	3.9	4.3	4.2	3.5	3.8	3.7	4.0	4.1	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	3.8	4.0	3.6	4.2								

*評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱコーディネーター 岩本 純

今回の授業評価結果では、3.5から4.3にわたって点をいただいた。「やや良い」と「非常に良い」の中間におさまったわけである。最高点は、「演習目標と概要の説明」についてであり、最低点は「学生数に対して指導教員数は適切だったか」という設問に対してであった。われわれ教員側にしてみれば2点台がなかったことにひとまず胸をなでおろしたわけであるが、前年度までの教授であった良村先生が転出された後の人手不足の中で、これだけの評価がいただけたということは、残されたスタッフの努力のたまものであると喜んでいる。ただし、一部の学生からの教員の指導姿勢に対する厳しい指摘もあり、指導に際しては誤解を与えないように留意しつつ、来年もこれ以上の評価を得られるように精進していく所存である。

快適に利用できる図書館であるために

本学図書館は、利用者の皆様がいつも快適に利用できるよう心がけております。しかし、特に試験期間、夜間・休日に図書館で勉強をするため、一部学生が昼間、閲覧席に荷物を置きっぱなしにすることでほとんどの席が埋まり、他の利用者が利用できず、多くの苦情が寄せられていました。

図書館としても努力をまいりましたが、状況が一向に改善されないため、9月の前期試験期間を“改善強化月間”とし、マナー改善の広報活動や指導を今まで以上に徹底したところ、皆様のご理解とご協力により、かなりの改善が見られ、昼間席を利用できないという苦情はなくなりました。

しかし、未だに一部学生の理解が得られず、荷物を閲覧席に置きっぱなしにする行為が見られます。来年に入ると、医師・看護師国家試験や後期試験が重なり、かなり良く改善された環境がまた損なわれることが心配されますので、今一度、以下のことを念頭に置いて図書館をご利用ください。

- ① 閲覧席の個人的な占有をしないこと。
- ② 図書館資料の個人的な占有をしないこと。
- ③ 資料を利用し終えた場合、元の場所に戻すこと。
- ④ 館内で飲食をしないこと。
- ⑤ 館内で大声で話したり、携帯電話を使用しないこと。

図書館は利用者のモラルで成り立っている部分が大きく、一人一人がそのモラルを守ることで“快適に利用できる図書館”となります。

そのために図書館は今後も一層努力をまいりますが、利用者の皆様にも、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（図書館情報課）

駐車場の有料化について

本学の駐車場は平成16年9月時点で982台分を有しており、うち325台は来院者用、97台は学生用、職員用は560台となっております。

2km以遠の職員等に対する許可証発行枚数は898枚で、160%の過密状態になっており、許可証の無い不法駐車を加えると200%を優に超えている状況と思われ、特に病院の駐車場は何時でも外来患者及び見舞客が駐車できるようスペースを確保しなければなりません、不法駐車が多く、朝のピーク時には駐車場に入れない車が身障者用スペースに入り込み、その結果、身障患者さんより度々苦情が来ております。

また、整理員が空きスペースを探し誘導していますが、対応しきれない状態で、患者満足度調査の度に駐車場への苦情・要望が絶えず、職員用駐車場についても同じ様な状況で対応に苦慮しているところです。

冬季には、不法駐車により除雪作業に著しく邪魔になり、大型車が通れずに困ったこともありました。

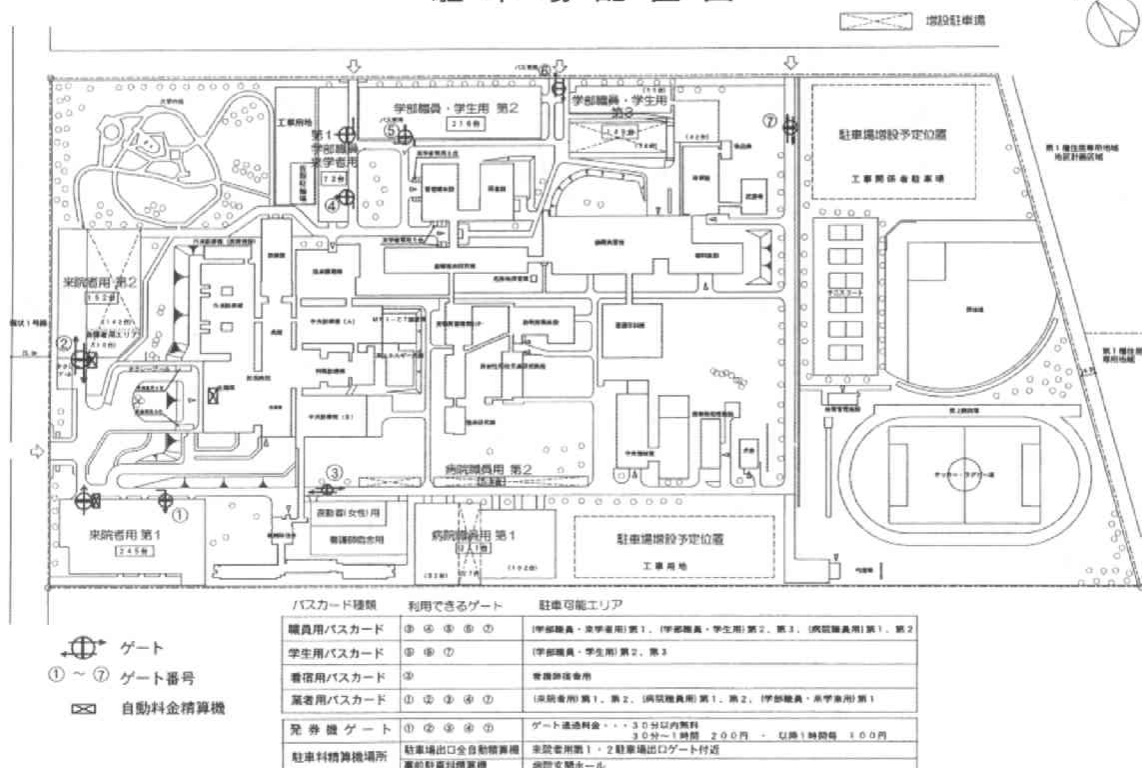
この様なことから、患者・見舞客その他の来院・来学者の利便性とサービスの向上のため、駐車場の増設とゲートによる管理を行い、不法駐車の構内立ち入りを規制し、構内の道路環境も含めた改善を図るものです。

第一期計画として駐車場4か所の増設工事を行ない214台増設しましたが、この整備には7千7百万円の経費がかかっております。まだ許可枚数分の駐車スペースの確保はできませんが、最終的には1,500台になるよう増設を予定しています。

今後、駐車場の増設、駐車場の除雪、ゲートの維持管理、整理要員等にかかる経費を賄うため、駐車場を有料化し、維持してまいりたいと思います。

以上の経緯より、平成17年1月から駐車場の有料化を行ないますのでご了承の上、ご協力をお願いいたします。

駐車場配置図



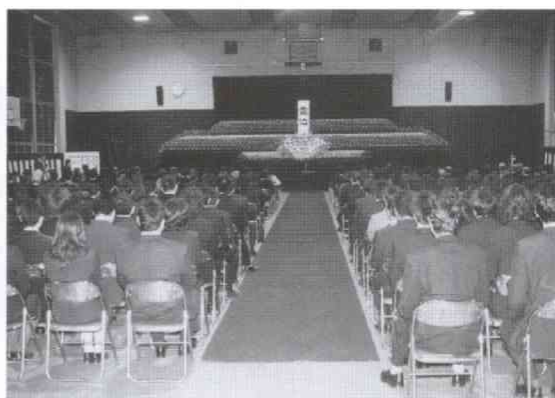
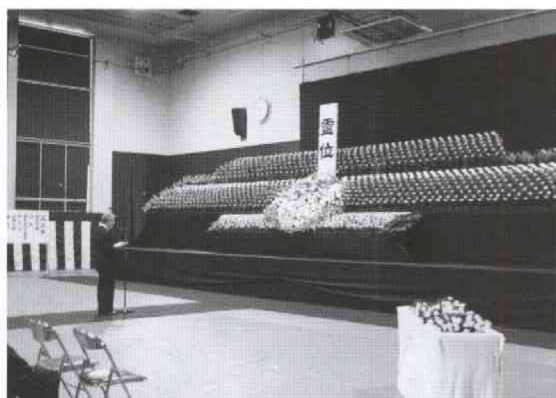
解剖体慰霊式

平成16年度解剖体慰霊式が9月22日(木)午後1時30分から本学体育館において執り行われました。御霊に対し黙祷が行われ、引き続き、八竹学長及び学生代表(医学科3年 堀 哲也)から追悼の辞が述べられました。その後、御遺族と御来賓の方々、教職員及び学生代表から献花が捧げられ、亡くなられた方々の御威徳を偲び御冥福を祈念しました。

(総務課)

平成16年度 御遺体数

系統解剖	病理解剖	法医解剖	合 計
25体	38体	105体	168体



学位記授与式

平成16年度修士・博士学位記授与式が、9月30日(木)午前10時から第2会議室において行われ、次の3名にそれぞれ博士(医学)、修士(看護学)の学位が授与されました。

博士(医学)

論文博士 小林 徹也
千里 直之

修士(看護学) 細野 恵子

(学生課)



医学科第2年次後期編入学生入学式

平成16年度医学科第2年次後期編入学生入学式が、10月1日(金)午前10時30分から第1会議室において行われました。

編入学者は次の10名です。

氏 名

村山 直樹 敦賀 弘道
伊東 哲宏 浅野 祐一
大津 圭介 木下 英幸
山田 郁美 柳 瀬 匡宏
小林 慶子 白 月 遼

(学生課)



表紙写真大募集

写真の得意な方、写真の好きな方、写真に興味のある方、あなたの写真で広報誌「かぐらおか」の表紙を飾りませんか。皆さんのご応募を、心よりお待ちしております。

採用の方には、わずかですが謝礼を進呈しております。

お問い合わせは学生課課外活動係 齋藤まで。

秋の叙勲

このたび、本学名誉教授である 牧野 幹男先生が平成16年度秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。

これは長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し授与されたものです。

(学生課)

教員の異動

辞職	H16.9.30	内科学第三	助教授	齋藤 裕輔
辞職	H16.9.30	眼科	講師	安孫子 徹
昇任	H16.10.1	歯科口腔外科学	教授	松田 光悦
昇任	H16.10.1	内科学第三	助教授	鳥本 悦宏
採用	H16.10.1	健康科学	助教授	今井 博久
昇任	H16.10.16	第三内科	講師	綾部 時芳
辞職	H16.10.31	第二外科	講師	松田 年
昇任	H16.11.1	小児科学	助教授	伊藤 善也
配置換	H16.11.1	小児科	講師	田中 肇
昇任	H16.11.1	第二外科	講師	稲垣 光裕
採用	H16.11.1	英語	講師	三好 暢博



窓 外

耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座

今 田 正 信

冬ごもり反応

私は夏が好きで、冬が大の苦手である。私は『北海道の湘南』と称される道南の伊達市出身である(伊達時代村は登別にあり、この点は誤解が無いように願いたい)。伊達は噴火湾に面し、そのため夏はそれほど異常な暑さにはならないし、冬も温暖とまではいかないものの旭川の冬に比べたら比較にならないほど穏やかな気候である。老後を伊達で過ごしたいと移り住んでくる道内の定年退職者が多いとも聞く。そんな場所で育ったから、旭川の厳しすぎる冬は苦手なのだろうと思っていた。しかし、最近特にその傾向が強くなってきている。夏至が過ぎると昼間がどんどん短くなり、気持ちが沈み憂鬱な気分になって朝起きるのが辛くなってきたのである。さすがにここまで来ると自分でも異常かなと思い悩んでいた

最近、とあるラジオ番組で『冬ごもり反応』なるものについて話していた。それは人間も動物と同じく冬ごもりをするというものである。寒冷な気候に住む人々は本能的に自分の家を巣穴にし、睡眠を長くし、体重を増やすというのである。またさらに冬ごもり反応の別の面として季節性情動障害(seasonal affective disorder SAD)があり、これは急性の冬季のうつ病で日光の不足と関連づけられているらしい。しかもどんな人も程度の差こそあれ冬ごもり反応が出、そして人口の4分の1はSADにかかるというショッキングなことまで言っていた。これは私が冬期間に呈する症状(体重が増えることも含め)の病名と原因をものの見事に説明してくれたのだった。私がすこし安心したのは、その原因がわかったことのみならず、周りの人の4分の1が実は同じ症状に苦しんでいる？事実を知ったからであった。これを読んで『そうだったのか!』と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか?この番組はSADの解決策をいくつか示していて、その中の1つに『ゴミの始末(整理整頓)をする』と言う項目があった。とりあえず、異常にちらかっている医局の私の机とその周辺の掃除から始めることにし、その効果は何かの機会にご報告するつもりです。